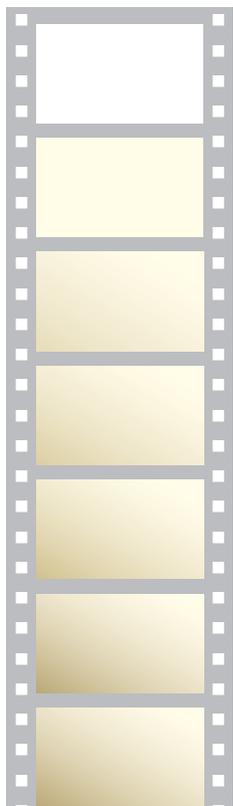


伸^{ノブ}さんのシネマトーク

鈴木 伸夫



第四十五回 「スクリーンのDJたち」②

思いつくままにスクリーンに登場したDJをご紹介しますが、個性的といえ
ば、「グッドモーニング・ベトナム」（88年製作・アメリカ映画、監督バリー・レビ
ンソン、出演ロビン・ウィリアムス、フォレスト・ウィテカーほか、音楽アレック
ス・ノース）の主人公ロビン・ウィリアムス扮するDJ「エイドリアン・クロンナ
ウア」は、65年、ベトナム戦争が拡大するやさき、ラジオの放送で兵士たちの士気
を高めるため、米軍放送のサイゴン支局へ派遣されたのです。

米軍放送はソフトな音楽に、検閲を通過したニュースで番組を放送していました
が、クロンナウア一等兵は違いました。朝から叫び声は上げる、ロックの曲はかけ
る、ものまねでジョークを言うなど、やりたい放題のDJ。

ところが、このDJが戦争の最前線にいる兵士たちに大好評だったのです。

映画のなかで胸を打つのはルイ・アームストロング（ニックネームはサッチモ）
の歌う「このすばらしき世界」。この曲は映画「ブルー・ハワイ」（61年製作・アメ

リカ映画、音楽ジョゼフ・J・リリー）の劇中歌「好きにならずにいられない」を書いたジョージ・デヴィッド・ウエイスがジョージ・ダグラスと共同で67年に作りました。当時、アメリカ人には無視されましたが、イギリスのヒットチャートでは第1位にランキング。

しかし、アメリカではランク外なのにミリオンセラーとなりました。4年後、「サッチモ」はこの世を去りますが、映画「グッドモーニング・ベトナム」で使われ、曲が発表されてから21年後にアメリカのヒットチャートに入りました。この歌は映画のなかで、戦争のむなしさを訴えるシーンに流れます。

英会話が得意な人には、ロビン・ウィリアムスの早口DJと、ものまねで、倍、楽しめます。なお、主人公のエイドリアン・クロンナウア一等兵は実在の人物で、聞くとところによりますと、現在、弁護士をしているとのことす。

次は韓国映画から・・・。

「春の日は過ぎゆく」（01年製作、韓国・日本・香港合作映画、監督ホ・ジノ、出演ユ・ジテ、イ・ヨンエほか。音楽チョ・ソンウ）

ラジオ局のDJとプロデューサーを兼任する女性ウンス（イ・ヨンエ）と、彼女よりも年下の録音技師サンウ（ユ・ジテ）。映画は、二人の心のすれ違いを「四月の雪」「8月のクリスマス」の監督ホ・ジノがせつなく、せつなく描きます。映画の中に流れる曲が、どこかで聴いたことのある曲でした。調べてみるとあのプレスリーが映画「ブルーハワイ」（61年製作・アメリカ映画、音楽ジョゼフ・J・リリー）のなかで歌った「好きにならずにいられない」でした。

この原曲は、ドイツ生まれでフランスに帰化した音楽家、ジャン・ポール・マルティニーが作曲した、十八世紀終わりの古典曲「愛の喜び」だったのです。またこの曲は、ウィリアム・ワイラー監督の映画「女相続人」（49年製作・アメリカ映画、音楽アーロン・コープランド）のなかで使われ、アカデミー賞の劇映画音楽賞を受賞しました。

その後、ヒューゴー・ペレッティ（トランペット奏者）、ルイジ・クリート（作詞家）、ジョージ・デヴィッド・ウェイス（作曲家）の三人が「愛の喜び」にヒントをえて、プレスリー調に編曲したのが「好きにならずにいられない」です。

この曲は70年代、プレスリーがステージのクロージングナンバーとして歌いました。

今年（平成24年）、青森の春は二週間以上も遅れてやって来ましたが、映画「春の日は過ぎゆく」の主人公二人に、春はやって来ないのです。

〈続〉

（文中敬称略）

伸

平成24年6月

追記

「好きにならずにいられない」の原曲「愛の喜び」の作曲者「ジヤン・ポール・エジード・マルティニ」（一七四一～一八一六）は、イタリア風の名前ですが、実はドイツ人で、本名を「ヨハン・パウル・エギディウス・シュヴァルツェンドルフ」といいます。17才の時、移り住んだフランスでイタリア風に改名し、宮廷音楽家やパリ音楽院教授を務めました。

ロマンティックなメロディのフランス語歌曲「愛の喜び」は、時にはイタリア語の歌詞により歌われます。その内容は

♪愛の喜びは、ほんのひとときのこと

愛の苦しみは一生続く。（中略）

彼女は私を捨てて、ほかの男のところへ走ってしまつた…。

つまり、この歌は、女性に振られた男の気持ちを歌つた歌曲なのです。調べて最後にこの事実がわかつた時、ぼくはメロディと歌詞の格差にがく然とし、きれいなバラにとげがあるように、ロマンチックな古典の歌曲にも大きなとげがあることを知りました。